

一 次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の——線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 経済が発展してヒンプの差が広がる。
- 2 ハデな色のトレーナーを買った。
- 3 お寺のケイダイに入る。
- 4 月は地球のエイセイだ。
- 5 雨天順延の予定になっている。
- 6 潔く間違いを認める。
- 7 徒党を組んで歩きまわる。
- 8 大きな声を出して衆目を集める。

問二 次のA、Eに当てはまる漢数字をそれぞれあとのア、ケから一つ選んで記号で答えなさい。なお同じ記号の空白部には同じ漢数字が入る。

- |   |       |    |   |   |   |     |     |     |   |      |   |   |            |
|---|-------|----|---|---|---|-----|-----|-----|---|------|---|---|------------|
| 1 | 石の上にも | A  | 年 | 2 | B | 里霧中 | 3   | 九死に | C | 生を得る | 4 | A | 寒四温        |
| 5 | B     | 十歩 | D | 歩 | 6 | E   | 転八倒 | 7   | D | 戦錬磨  | 8 | E | 度尋ねて人をうたがえ |
| 9 | 千載    | C  | 遇 |   |   |     |     |     |   |      |   |   |            |

アー イ三 ウ五 エ六 オ七 カ十 キ百 ク千 ケ万

## 二 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

人間である私たちは、楽しかった思い出を後々になつてなつかしみ、そのときにあったことをその場にいるかのように追体験することが当たり前のようにできますが、I ①このような記憶は自分自身を内省的にみる必要がある、かなり複雑なプロセスにより成り立っていることがわかっています。「意識的な追体験」という特徴が強調されることもあり、なかには人間だけがエピソード記憶をもち、「現在」からカイホウされ過去や未来に思いを馳せることができる」と主張する人もいます。

そこに待ったをかけたのが、動物の心理／生物学者たち！動物だってエピソード記憶をもつんだ！ということ、それはそれは工夫をこらした実験で実証していきました。涙ぐましい努力です。数ある動物のなかでヒトだけが唯一エピソード記憶をもつなんてことはありえない！ということを実証するために、霊長類・鳥類・昆虫の研究まで総動員でたくさんの証拠を集め、頑張っています（現在進行形です）。

A 動物がエピソード記憶をもたない、と言われている理由の一つに、実証の難しさが挙げられます。従来の動物の記憶研究では、「何を覚えなければならぬのか」に関して、報酬を用いた徹底的なトレーニングをしたうえで、覚えてから答えるまでの時間を延ばし、どの程度の時間記憶していられるのかを調べる、といった方法が主流でした。

II B、記憶を調べる研究手法として、「見本合わせ」という課題があります。これは、最初に見本となる一つの図形（サンプル刺激）を呈示して、時間をおいた後に、サンプル刺激と違う図形（妨害刺激）を複数呈示し、その中からサンプル刺激と同じ図形を選び、というものです。トランプの神経衰弱をソウゾウしてもらおうと、わかりやすいかもしれません。サンプル刺激と同じ図形を選択できれば「正解」で、報酬としておいしいおやつが与えられます。

（中略）

この課題方法では、動物は「後でサンプル刺激と同じものを選ぶ」ことを学習して知っており、サンプル刺激を「覚えようとして」覚えてしまいます。III C、偶発性が保証されず、この課題で得られたデータは記憶の分類でいうと意味記憶に該当してしまいます。

「覚えようとせずに覚えた記憶」を動物で取り出すにはどうすればよいのか。研究者のたゆまぬ努力により、いくつかの手法が提案されました。その中でも、シンプルでどの動物にも適用できる課題があります。それが、私の指導教授である藤田和生先生が考案した課題でした。

この課題では、イヌの大好きなおやつを用いて、一度きりの経験を思い出すことができるのかを調べました。一度きりの経験の記憶を問うことで偶発性を保証したのです。

(中略)

<sup>D</sup>この実験は2つの段階に分かれます。まず第一段階では、4つのお皿のすべてにイヌ用のおやつを入れ、床に置きます。イヌと飼い主はそのお皿を一つずつ確認していきます。ここでイヌは、4つのお皿のおやつのうち2つは食べることができるのですが、残りの2つは飼い主がリードを引っ張るなどして妨害するため、食べることができません。

このような経験を一度だけさせて、実験者はイヌと飼い主にさよならして、実験は終了！———のように見せかけ、15分間実験室の周りを散歩してもらいます。その間に実験者は、すべてのお皿をまったく同じ種類の新しいものに替えます。お皿を置く位置もまったく同じです。

W **W** 的な手掛かりだけでなく、おやつのおいという **X** 的な手掛かりを用いている可能性がのこってしまうからです。

そうやってお皿を全部替えたあとで、もう一度実験室に戻ってきてもらい、イヌをお皿の設置された部屋に連れて行き、今度は自由に行動してもらいます。深いお皿を用いているため、近寄らないと中身は見えません。実験者にさよならまでして、お外に出て、すっかりお家に帰るとはびっくり思っていたであろうイヌにとって、こんな展開は予想できなかったことでしょう。

このような状況で、イヌが最初にごのお皿に向かうのかを調べました。みなさんはイヌがどのお皿を選択するとおもいますか？少し考えてみてください。……どうですか？答えはありましたか？イヌは、 **Y** に向かうことがわかりました。これは、 **Z** と解釈できます。

(高木佐保『知りたい！ネコ』より)

\*エピソード記憶・・・個人が経験した出来事の記憶。時間や場所、その時の感情などが一緒に記憶されていることが特徴。

問一 〓線部①く④のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二

空欄

I

く

III

に入る語句として最も適当なものをつぎのアくエからそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

ア つまり    イ しかし    ウ たとえば    エ じつは

問三

〓線部A「動物がエピソード記憶をもたない、と言われている理由の1つに、実証の難しさが挙げられます」とありますが、その他にはどのような理由があると考えられますか。次の三語を用いて、五十字以内でその理由を答えなさい。

エピソード記憶

自分自身

複雑

問四 ——— 線部B 『見本合わせ』とありますが、この課題内容として適当なものを次のア～エから一つ選んで記号で答えよ。

- ア サルにリンゴの絵を見せて、バナナとスイカとブドウとリンゴの絵の中からリンゴの絵を選ぶことができたら報酬を与える。
- イ ネズミを、ボタンを押すとエサが出てくる箱の中に入れて、ボタンを押すとエサという報酬が出ることで学習させる。
- ウ イヌにエサを与える時に、毎回ベルの音を鳴らしておく、エサという報酬を与えられなくてもベルの音を聞くとイヌはよだれを流す。
- エ ウマに計算が書かれたボードを見せて、その答えの数だけヒヅメで地面をたたいて正解するとエサという報酬を与える。

問五 ——— 線部C 『覚えようとせずに覚えた記憶』とありますが、同じ意味合いで使われている言葉を十字でぬき出して答えなさい。

問六 ——— 線部D 「この実験は2つの段階に分かれます。」とありますが、第2段階の実験について書かれているのはどこからですか。その書きはじめを一文でぬき出し、最初の五字を答えなさい。

問七 空欄 

W
---

、

X
---

に入る語句として最も適切なものをつぎのA～カからそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 内
- イ 外
- ウ 上
- エ 下
- オ 右
- カ 左

問八

本文中における実験によって、イヌにエピソード記憶がある可能性が高いことが実証されました。そのことをふまえて空欄

Y、

Z

に

あてはまるものを、つぎのA～Eからそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

Y

- ア 先ほど食べることができたおやつがあったお皿に向かう
- イ 先ほど途中まで食べていたおやつがあったお皿に向かう
- ウ 先ほど食べそこねたおやつがあるはずのお皿に向かう
- エ 先ほど食べたはずのおやつのおいが残っているお皿に向かう

Z

- ア 先ほどのおやつを食べた経験を「思い出し」、そのお皿に向かった
- イ 先ほどのおやつを食べた経験を「思い出せず」、ただおやつのあるお皿に向かった
- ウ 先ほどのおやつが食べられなかった経験を「思い出し」、そのお皿に向かった
- エ 先ほどのおやつが食べられなかった経験を「思い出せず」、ただおやつのあるお皿に向かった

三 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

ここまでではためし書きである。

ぼくは毎日ノートをたくさん書く。みんながびつくりするほど書く。おそらく日本で一番ノートを書く小学四年生である。あるいは世界で一番かもしれないのだ。先日、図書館でミナカタ・クマグスという面白い人の伝記を読んでいたら、その人もたくさんノートを書いたそうだ。だから、ひよっとするとミナカタ・クマグスにはかなわないかもしれない。でも、ミナカタ・クマグスみたいな小学生はあまりいないだろう。

ぼくはこの習慣のおかげで

I

えらくなって頭角を現してきた。

父はそのことを知っている。なぜならば、ノートの書き方を教えてくれたのは父だからである。この文章を書いている赤くて硬い表紙のついた方眼のノートは、父に買ってもらった。父はぼくが書きこみでノートをいっぱいになるとほめてくれる。チョコレートをくれることさえある。

ところで、こういう日記みたいな文章は今まであまり書いたことがなかった。

なぜ急に書くこうと思いついたかというと、昨日、父と喫茶店で話をしている、ぼくが人生におけるたいへん重要な局面にあると気づいたからだ。

「毎日の発見を記録しておくこと」と父は言った。

だから、ぼくは記録する。

ぼくが初めてペンギンを目撃したのは五月のことだった。

ノートには「午前六時半起床。ぼくと妹が起きてくるのを見てから父は出勤。快晴。湿度は六十%。やわらかい風」というメモがある。

妹を連れて家を出たのは七時三十五分である。七時四十分、住宅地の中央にある公園の前に近所の子どもたちが集まって、方眼ノートのように区切られた住宅地を抜けていく。あちこちで雨戸を開ける音がする。犬の吠える声がある。道路わきにある自動販売機が、朝の光に

II

する。風が電線を

ゆらして、ぼくらの太ももをスルスウさせる。

ぼくはこの季節がたいへん好きである。頭脳がメイセキになるからだ。登校している間も、妹はずっとにぎやかである。なんにでも平気で口を出すのだ。

おしゃべりは妹にまかせて、ぼくはノートを読みながら歩く。

(中略)

そのとき、先頭を歩く六年生が「あれ」と声をあげ、班のみんなが立ち止まった。ぼくはノートに夢中になっていたので、うっかり妹のクツのかかとを踏んづけた。ふだんなら

III

怒る妹が、その日は何も言わなかった。

歯科医院を過ぎた左手には、車道に面して空き地が広がっている。電信柱に囲まれて、コンクリートに小さく区切られた草原が、ずっと続いているのだ。大勢の子どもたちが一列になってしんと息をのんで立っていた。みんな空き地の向こうを見つめていた。妹が「お兄ちゃん」と言った。彼女は両手をお腹の前で握りしめて、ただでさえ大きな目を転げ落ちそうなほど見開いていた。

風が吹き渡ると、朝露にぬれた草がきらきら光った。キウキウキシキシと学校の床を鳴らすような音が聞こえてきた。広々とした空き地のまんなかにペンギンがたくさんいて

IV

歩きまわっている。

なぜぼくらの街に、ペンギンがいるのか分からない。

子どもたちはだれ一人、身動きしない。

ぼくはしっかりと観察するために、そばに行くことにした。それが本当にまじりつけなしのペンギンなのかどうか、あるいは遺伝子に突然変異を起こしてずんぐりむっくりしたカラスなのか、それを研究する必要があるのだ。ほかの子どもたちは見ているだけ。ぼくが草を踏みしめる音と、風が電線をゆらす音と、ペンギンらしいものたちが立てるヘンテコな音が聞こえるばかりだ。

ぼくがそばへ寄っても、ペンギンたちは逃げなかった。

本物のペンギンをそばで見たことはないけれども、その鳥たちはペンギンそっくりだった。翼をパタパタしたり、思いついたようによちよち歩き出して転びそうになったりする。とてもちくはぐで、遠い惑星から地球にやってきたばかりの宇宙生命体みたいだった。

捨てられたバイクがころがっていて、そのとなりにペンギンが立っていた。ぽかんとして青空を眺めている。オモチャのような目はほとんど動かない。白くてふわふわしているようなお腹に、ひとすじの泥がこびりついていて、お腹を下にしてごろごろしたのかもしれない。ぼくはノートの新しいページを開いて、日付と時刻を書き、さっそくスケッチした。

(森見登美彦「ペンギン・ハイウェイ」より)



問一 —— 線部①～③の本文中における意味として適切なものを、あとのア～エの中からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

① 頭角を現してきた

ア 不真面目さがばれてしまった      イ 才能の芽が現れはじめた      ウ 勉強が習慣化してきた      エ 成績が抜群に良くなった

② 息をのんで

ア 息をするのを我慢して      イ 口の中の唾を飲み込んで      ウ 声を出さずにそっとして      エ 驚きで息をとめるようにして

③ まじりっけなし

ア 混血ではなく純血の      イ 透明感のある清潔な      ウ 真正銘本物の      エ 雑味がなくすっきりとした

問二 空欄 I ～ IV にあてはまる語句として最も適切なものをつぎのア～オからそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

ア よちよち      イ ぐうぐう      ウ きらきら      エ ふうふう      オ ずんずん

問三 .....線部①「先頭を歩く六年生が『あれ』と声をあげ」、②「妹のクツのかかとを踏んづけた」、③「その日は何も言わなかった」、④「空き地の向こうを見つめていた」、⑤「大きな目を転げ落ちそうなほど見開いていた」のうちで、ペンギンが空き地にいたことが原因ではない行動が一つだけあります。それはどれですか、一つ選んで数字で答えなさい。

問四 ——線部A「方眼ノートのように区切られた住宅地を抜けていく。」の中で使われている表現技法は何か、つぎのA～Eから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 擬人法      イ 倒置法      ウ 体言止め      エ 比喻

問五 ——線部B「ヘンテコな音」とありますが、具体的にどのようなものだったのか、文中より二十一字でぬき出して答えなさい。

問六 ——線部C「その鳥たちはペンギンそっくりだった」とありますが、なぜ「ペンギンだった」と書かずに、このような表現になっているのか。その理由を次の語句を使って三十字以内で説明しなさい。

住宅地      本物

問七 — 線部D「ちぐはぐ」とありますが、「ちぐはぐ」は、二つ以上の物事がうまくそろわないで食い違っていたり、調和がとれなかったりする様子のことを言います。この「ちぐはぐ」を使って短文を作りなさい。ただし、解答には主語と述語を必ず書きなさい。

問八 — 線部E「さっそくスケッチした」とありますが、ペンギンの様子として適切でないものをつぎのA〜Eから一つ選んで記号で答えなさい。

ア ペンギンはよちよち歩き回って転びそうになったりしている。

イ ペンギンは捨てられたバイクの横にたって、ぼかんと空を見ていた。

ウ ペンギンは白くてほわほわしていそうなお腹を下にしてごろごろ泥遊びをしている。

エ ペンギンはぼくがそばに寄っても逃げることなく、オモチャのような眼で空を見ていた。

問題はこれで終わりです。